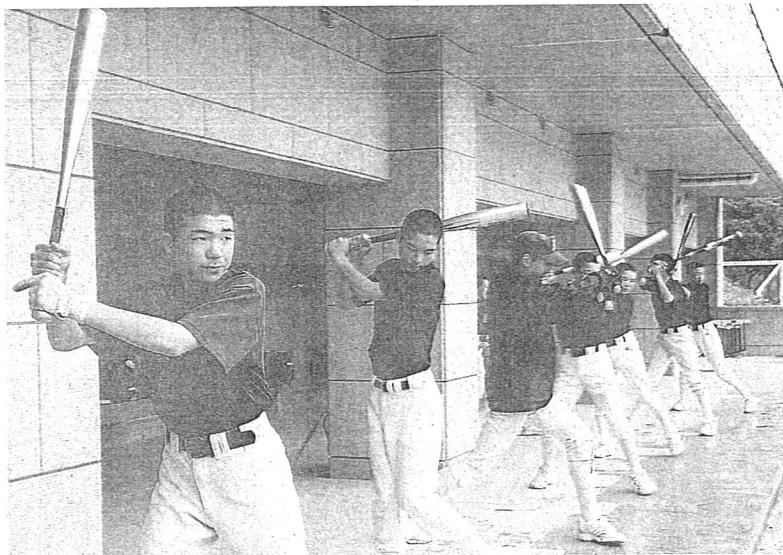


## 金 地域から 世界から

ご意見は〒104-8243読売新聞東京本社教育取材班へ。  
ファックス03・3217・9908、メールkyouiku@yomiuri.com



## 学校選択制見直し活気

部員が増えて活気づく三  
川中学校野球部。雨天で  
も素振りをして汗を流す  
(5月1日、長崎市)

眞も)  
(長崎支局 遠藤信葉、写

長崎市は今年度から、小中学校で7年間実施してきた学校選択制を見直し、地元の学校に通う仕組みに戻した。学校の知名度や通学の便利さで

新入生が隣接校を選んだ。しかし、同市は坂の多い街。

春、前年より22人多い68人が入学。昨夏以降、9年生15人が入り、元

ウンドいっぱいに活動していた野球部には、1年生15人が入り、元

響く。主将の3年、山口尚志君(14)は「部員が増えたうれしい。夏の大会でも頑張れそう」と額の汗を拭う。顧問の荒川洋一教諭(54)も「取り組める練習の幅が広がった」と喜ぶ。

学校選択制は2000年頃から各地に広がったが、最近は東京都江東区などが縮小、前橋市などが廃止した。長崎市教委の松本健吾・学校教育課長(56)は「地域という観点を欠いていたため、見直す結果を招いた。学校の特色作りは、別の形で進めた」と話している。

# 学ぼう



選ぶケースが目立ち、地域との結びつきが薄れるなど、弊害が出てきたためだ。

市は、学校が選ばれる立場になることで、特色づくりや質的向上が進むとして、2005年度から隣接校への入学を認めた。昨春は小学校で8・5%、中学校で9・1%の新入生が隣接校を選んだ。

高台にある三川中学校は今、高台にある三川中学校は今、他校への入学を認めないこととした。今春、他校に進んだ。

新入生は小学校で5・2%、中学校で5・8%に下がった。

このため、市は、地元の学校が現れ、行事や部活動に支障が出ていた。

来の5・6割しか入学しない

学校が現れ、行事や部活動に支障が出ていた。